



地域の歴史、風土、
生物多様性に
配慮した「もの」「こと」
づくりを行います。

いきものと人の共生 ABINC 認証制度

活動時期 2017年4月～継続中

活動場所 制度や企画部会の活動やABINC認証取得を目指す全国の事業推進地

一般社団法人いきもの共生事業推進協議会が運営する「いきもの共生事業所®認証」ABINC(エイビック)認証制度は、いきものと人が共生できるしくみを「創造」し、科学的・技術的に「検証」し、「事業化」を推進することを目的としており、私たちはその会員企業として様々な活動に取り組んでいます。主な活動は、講習会の講師、ABINC 認証制度の検証・認証審査、地域性種苗の研究です。また、ABINC 認証取得を目指す事業者のコンサルティングや、地域コミュニティ醸成のお手伝いにも取り組んでいます。

※いきもの共生事業所®はJBIBの登録商標です。

活動の
目的

ABINCへの活動を通じ、生物多様性の保全や地域コミュニティ形成など「いきものと人が共生するしくみ」の先進的な情報にふれ、社内外への情報共有を進めることで、それらの情報を都市のみどりを創造する造園工事や、公民連携で取り組む公共空間の管理運営にフィードバックし、SDGsへの貢献など社会課題の解決を目指しています。

取り組み
成果

これまでに ABINC 認証取得した事例を紹介します。
①ライオンズ守山マークヒルズ(名古屋):地域植生に配慮した植栽や野鳥を呼び込む仕掛けがあり、入居者によるモニタリングや、剪定枝のチップ化、落葉の堆肥化にも取り組んでいます。
②プレミスト有明ガーデンズ(東京都江東区):自然素材に囲まれたガーデンに鳥を呼び込むバードバスや鳥かごを配置。落ち葉を堆肥化して家庭菜園で活かしています。

今後の
目標・
課題

お客さまより ABINC 認証取得についてのお問合せも頂くようになり、社内に在籍する ABINC 講習会受講者を中心として、それらのニーズに応じていき、今後もいきものと人が共生できるみどりが都市に広がることを目指していきます。



- 1 東海地区の集合住宅で初の ABINC 認証を取得したライオンズ守山マークヒルズでは、入居者向けの説明会を開催。
- 2 いきもの暮らし家エコスタック:ライオンズ守山マークヒルズ。
- 3 落ち葉を堆肥化する落ち葉溜め:プレミスト有明ガーデンズ。
- 4 屋上テラスの家庭菜園コーナー:プレミスト有明ガーデンズ。
- 5 水辺の潤いと自然素材の気持ちよさを感じるリラックスガーデン「Hygge(ヒュッゲ)」:プレミスト有明ガーデンズ。
- 6 「自然と共生する世界」の実現にビジネスから貢献するという ABINC の設立趣旨を社内外で情報共有。



- 1 自然観察会の様子。昆虫の生態を知り、ヨシ原(植物)との関係性を学びます。
- 2 ヨシ原の刈り取り体験。刈ったヨシは、ヨシ小屋づくりや紙漉き体験のワークショップにも活用。
- 3 生き物を採集し観察。普段あまり気にならない地際の子供の小さな昆虫を理解します。

カッコウを呼び戻せ! ヨシ原活用大作戦

活動時期 2017年4月1日～継続中

活動場所 せんだい農業園芸センター みどりの社(仙台市若林区荒井)

せんだい農業園芸センターみどりの社は、東日本大震災の津波被災地の復興事業として日比谷アメニスが代表企業となり「農と触れ合う交流拠点」をテーマに再整備・事業運営を行っています。3年前より「仙台市生物多様性推進事業」の一貫として、園内の再生ヨシ原での生き物観察会や維持管理作業などを市民協働で実施。市の鳥カッコウをヨシ原に呼び戻そうを合言葉に生き物のつながりや、自然と人の暮らしを考える様々な活動を行っています。

活動の
目的

市の鳥でもあるカッコウを始め、多くの生きものが生息するヨシ原の環境に着目し、生きもの観察会や市民協働のヨシ原の維持管理などを通じて、生きもの同士のつながりや、自然との暮らしに関する理解を深めることに取り組んでいます。

取り組み
成果

計9回の催しには毎回約40名の市民が参加。ヨシ原と人の暮らしとのつながりに理解を深めてきました。昨年にはカッコウの姿も戻り始め「生物多様性アクション大賞2019」(国連生物多様性の10年日本委員会)で入賞を果たしました。

今後の
目標・
課題

昨年よりみどりの社の多様な環境を活かした自然観察会を毎月1回開催。自然環境や生き物と人の暮らしについての学びの機会を通じて、子どもから大人まで多くの市民に生物多様性と環境の保全及びその利用についての情報を発信しています。



- 1 「桜の棚田」として知られる儀明の棚田。
- 2 桜の苗木の植樹～未来のシンボルツリーを育てます。
- 3 樹木医による桜の診断。

地域の風景を未来につなぐ 棚田の桜植樹

活動時期 2019年7月、2020年10月

活動場所 儀明(ぎみょう)の棚田(新潟県十日町市)

棚田のメッカ十日町市の棚田のなかでも「桜の棚田」として知られる「儀明(ぎみょう)の棚田」。この棚田のシンボルである桜の樹木診断を行ったところ、空洞や腐朽がみられ将来的に倒伏してしまうことがわかりました。そこで、将来的に現在の桜が枯れてしまったときに次世代の新たなシンボルツリーとなるよう桜の苗木の植樹活動を行いました。

活動の
目的

北部緑地では造園会社としてランドスケープの知見を活かしながら人、地域、自然が繋がっていくことを目指しています。そのひとつが地域の伝統的な自然景観といえる棚田の保全活動です。

取り組み
成果

社会貢献活動として行った今回の植樹ですが、地元棚田保存会からお礼として新潟県のお米が会社に届きました。そのお米は会社近隣の子ども食堂へ届け活用していただきました。棚田の保全活動を通して地域とのつながりを感じる一瞬でした。

今後の
目標・
課題

北部緑地本社のある荒川区からは遠く離れた十日町の棚田ですが、今後も棚田の水田の測量などさまざまなかたちで保全活動に参画し、地域と地域を未来につなげる活動をつづけていきます。

活動実施会社 北部緑地株式会社

